

学校だより

No. 7

【学校教育目標】「自ら考え、共に学び合う子の育成」



文責 近藤 卓

暦の上では立冬を迎え、朝夕はぐっと冷え込むようになりましたが、子どもたちは元気いっぱいに登校しています。朝の挨拶立ち番をしても、子どもたちの素敵な笑顔が、寒さを吹き飛ばしてくれます。しかし、いつもは元気にあいさつする子の声が小さかったり、あいさつをしても全く反応がなかったりすることがあります。そんなときは「大丈夫？」と声をかけたり、担任の先生に様子を聞いたりしています。

アドラー心理学では、「人の行動はすべて『目的』に向かっている」と考えます。たとえば、反抗的な態度には、本人が意識していなくても「注目されたい」「仲間に認められたい」などの目的が隠れている場合があります。また、「助けて」というサインが含まれることもあります。

子どもが何か気になる行動をとったとき、頭ごなしに叱るのではなく、「どうしたの？」などと声をかけ、本人の背景や気持ちに思いを馳せながら、共感的に寄り添う関わりが大切になります。そして、私自身、そんな関わりができる大人でありたいと思っています。



縦割り班なかよし遠足

縦割り班とは、1～6年生で構成されたグループのことで、弘道小学校では10の班に分かれて掃除や行事などの活動を行っています。11月5日（水）の「縦割り班なかよし遠足」では、校区のウォークラリーに挑戦しました。6年生がリーダーとなり、永楽館や出石城、辰鼓楼などを巡り、五感を使っての体験が深い学びに繋がりました。

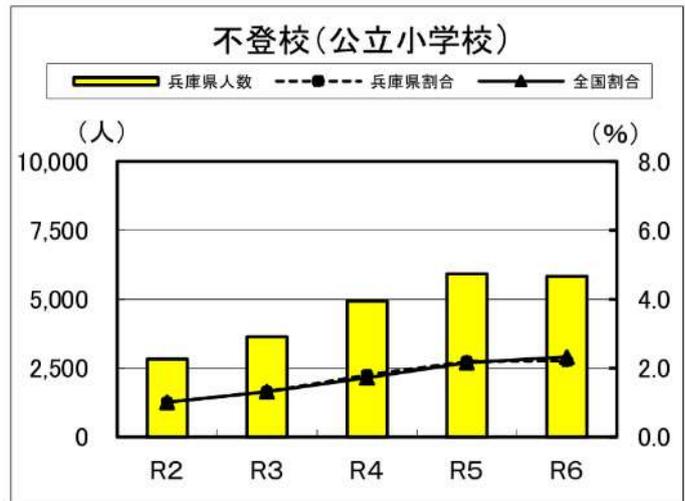




兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況

新聞やニュース等で報道されていますので、ご存じの方も多いと思いますが、10月末に「令和6年度兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況について」が公表されました。

近年増え続けていた県内公立小学校の不登校数は、前年度より84人減り**5,828人**となりましたが、県内公立小学生全体の**2.21%**となり、割合としては前年度より0.02%増加しています。(中学校は**9,628人**で、県内公立中学生全体の**7.49%**となっています。)



不登校の要因は多岐にわたります。また、時間の流れによって変化したり、本人にもよく分からなかったりする場合があります。そこで、多面的な観点から丁寧にアセスメントし、本人の困り感に寄り添いながら、適切な支援をしていくことが大切になります。

「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律(いわゆる「教育機会確保法」)が施行されてから8年になります。この間、不登校に対する考え方は大きく変化しましたが、未だに不登校の要因を「怠け」や「甘やかし」などとする偏見が、本人や保護者を苦しめている現状もあります。まずは、周りの大人が不登校について正しく理解し、適切な関わりをしていくことが重要です。



児童虐待防止推進キャンペーン

職員室の前に、ひときわ目を引く大きなポスターが貼ってあります。こども家庭庁では、毎年11月に「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」を実施し、家庭や学校、地域等の社会全般にわたり、児童虐待問題に対する深い関心と理解を得ることができるよう、期間中に児童虐待防止のための広報・啓発活動などの取組を集中的に実施しています。



人権週間(12月4日~10日)

12月4日から10日までの1週間は「人権週間」です。いじめや虐待、性被害等のこどもの人権問題、外国人やアイヌの人々、性的マイノリティ等に対する不当な差別や偏見、部落差別(同和問題)、ハンセン病問題といった多様な人権問題が依然として存在しています。これらの問題の解決には、私たち一人一人が様々な人権問題を、自分以外の「誰か」のことではなく、自分のこととして捉え、互いの人権を尊重し合うことが大切です。

